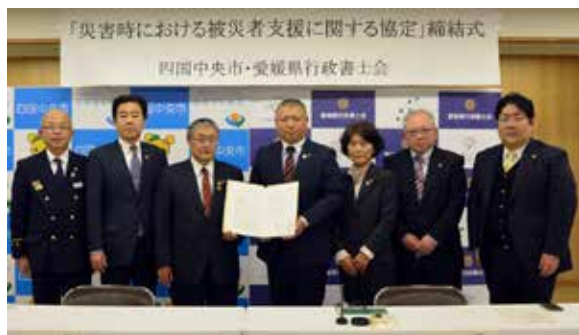




1/17

災害時における被災者支援に関する協定締結式



大規模災害時には、被災者本人が罹災証明書の手続きなどを行うことが困難になると予想されます。このことから、行政書士の方々のご協力を得て、被災者の一日も早い生活再建に向けた取り組みが可能となるよう、本市と愛媛県行政書士会（山本大樹^{ひろき}会長）が被災者支援に関する協定を締結しました。

1/18

労働者福祉協議会が子ども若者発達支援センター（パレット）へ机と椅子を寄贈



四国中央地区労働者福祉協議会（井上俊正^{しんせい}会長）は、本市の地域福祉向上を目指し、市内の福祉事業所に備品を寄贈するなど地域貢献事業を実施しており、今回で23回目となります。今回の寄贈は、市障害児等福祉審議会委員でもある井上会長が、パレット利用者の保護者から寄せられた要望に応えたものです。

1/20

「ありがとうの手紙」



土居文化会館（ユーホール）で行われ、応募のあった手紙の中から選ばれた「ありがとうの手紙」を、俳優の下條アトムさんが朗読し、手紙に添えるように歌手の沢田知可子さんが音楽を奏でました。二人が織りなすあたたかい雰囲気ステージに、約120人の来場者から大きな拍手が送られていました。

1/26

新長谷寺で文化財防火デー防災訓練



昭和24年に法隆寺金堂が焼損した1月26日を「文化財防火デー」と定め、文化財を火災などの災害から守り、文化財愛護に関する意識高揚を図るために、全国的に防火運動が行われています。本市でも毎年文化財所在地で訓練を行っており、今年は多数の市指定文化財を所蔵する寒川町の新長谷寺で実施しました。

1/27

ボランティア市民活動交流会



福祉会館で行われた交流会には、ボランティア団体などから約130人が参加し、10人程度のグループになって、自身の活動内容などを話したり、相手の話に共感したりしながらボランティアの輪を広げました。また、今年は市が実施している「あったかなまちづくり活動支援事業」対象団体による事業報告会も行われました。

1/28

「身につけよう防災力」講演会



NP0 法人ゆめ風基金理事の八幡隆司^{やへたかし}さんを講師に迎え、土居文化会館（ユーホール）で行われました。八幡さん自身の被災経験に基づく避難所のあるべき姿や、障がい者・災害弱者ができる普段からの備えについての話があり、約100人の参加者は、安否確認の重要性などへの理解を深めていました。

2/3 歴史文化フィールドワーク in 四国中央市



地域資源を活用して歴史や文化に愛着を持ってもらい、交流人口の増加などにつなげようと、東予歴史文化資源活用市町連携協議会が開催しました。市内外から参加した21人は、学芸員の説明を熱心に聞きながら国指定史跡の宇摩向山古墳や近くの宝洞山古墳などを歩いて巡り、2か所の石室内に入って見学しました。

2/3～25 第14回四国中央市児童・生徒書道展覧会



書道の普及と振興に寄与するために毎年行われており、妻鳥町の愛媛県産業技術研究所紙産業技術センターで開催されました。今回は、市内26校の小学3年生から中学3年生の応募作品から選出された357点が展示され、その中から63点が、市長賞などの個人賞に選ばれました。

2/4 第14回四国中央市小学生駅伝大会



伊予三島運動公園多目的グラウンド外周コースで開催され、市内のスポーツ少年団やスポーツクラブなどから、駅伝の部に65チーム325人、フリーの部に206人が参加しました。厳しい寒さの中、子どもたちは保護者やチームメートからの大きな声援を受けて力強く走り抜き、たすきをつないでいました。

2/4 社会のしくみを楽しく学ぶ！「こどもタウン」



公益社団法人宇摩法人会（石崎康文会長）などが、子どもたちに楽しみながら社会の仕組みを学んでもらおうと、三島小学校体育館で開催しました。参加した市内の小学生約70人は、体育館内の「こどもタウン」という仮想の町で、仕事をして給料をもらい、税金を納めるなどの社会体験をしました。

2/4 ケロボンズ親子コンサート in 四国中央



土居文化会館（ユーホール）で開催され、「エビカニクス」でおなじみのケロボンズが歌やダンスなどのステージを披露しました。

約360人の来場者は、親子で一緒に歌ったり踊ったりして、楽しい時間を過ごしていました。

2/4 第4回しこちゅ〜国際交流フェスタ



市国際交流協会（合田勝一会長）が、市民と市内に在住する外国人との交流の場として実施しており、今年は約200人が参加して福祉会館で行われました。会場ではステージイベントのほか、いろいろな国のブースが設けられ、参加者は用意された各国の食べ物を試食したりゲームに挑戦したりして交流を深めました。



2/4

部落差別解消推進法施行記念 太鼓集団「怒（いかり）」公演



太鼓の演奏や語りを通して「平和と人権」の大切さと差別解消への思いを共有することで、問題解決に向けた行動につなげてもらおうと、市民会館川之江会館で開催されました。会場では、講話に続いて5曲が披露され、魂のこもった迫力ある演奏に客席から大きな拍手が送られていました。

2/7

NPO 法人いりこ倶楽部が 料理レシピ集を寄贈



NPO 法人いりこ倶楽部（山川かずこ理事長）から、地域の伝統的な食文化の普及・啓発を目的に、えひめ地域政策研究センターのまちづくり活動アシスト事業助成金を活用して作成した、いりこ料理レシピ集「いりこを食べる」が市に寄贈されました。レシピ集は、市内の公民館などで配布されます。

2/7

地域エンパワーメントカレッジ



消防防災センターで、男女共同参画の意識啓発を図る3回の連続講座の1回目が行われ、県男女共同参画センター館長の越智やよいさんが、災害時の男女共同参画の視点について講義しました。約60人の受講者は、講義を聞いたりグループ内で意見を交わしたりして、災害時における女性の視点の重要性を学びました。

2/8

うま農業協同組合が 母子健康手帳ケースを寄贈



うま農業協同組合（篠原一志代表理事組合長）から母子健康手帳ケース750個が市に寄贈されました。ケースは、母子健康手帳や診察券などをひとまとめにでき、妊婦さんや子育て中のお母さんの暮らしに大変役立つ作りとなっています。なおケースは、保健センターで母子健康手帳を交付する際に配布されます。

市長の ひとりごと



四国中央市長
篠原 実

「平成30年度（心新たに）」

先日、スーパーに寄った際、節分用に大豆の煎ったのが並んでいた。

節分って何だろうと思って調べてみたら、季節を分けることだから、立春・立夏・立秋・立冬と年に4日あり、その前日を節分というを書いてあった。

豆をまいて、その季節の邪気をはらい、新しい季節を迎えるのである。

この前、正月であつたのに、もう立春も過ぎた。役所は年度という一年を締めくくる単位があり、4月から平成30年度となる。

もうすぐ始まる3月市議会に提出する当初予算案で、その年度のほぼ方向が決まる。

部署にもよるが、今の時期は、予算の作成と次年度の人事で一番忙しい、気の張った時期になる。

普通の人は、「自分には能力がなくて、あまり仕事が出来ない」なんて思っている人はいない。

しかし、役所の仕事をデジタル化するのは難しい。自分の評価と他人の評価が、どなた様でもずれてくる。

「時々の初心忘るべからず」である。

決断する任務のほうも、心を覚悟させて対処するのである。

